

平成 28 年度

東京都子ども会育成研究協議会を終えて

特定非営利活動法人東京都
子ども会連合会
理事長 齋藤 武

東京都子ども会育成研究協議会は、加盟団体の輪番で開催されており、平成 28 年度（第 46 回）は平成 29 年 3 月 5 日、墨田区曳舟文化センターに於いて参加者 100 名（育成者 75 名、JL23 名）で開催されました。墨田区での開催は実に 31 年振り、前回の育成研究協議会を知る人は極僅かで時の流れを実感したところです。

本年度のメインテーマは、「メリットいっぱい！子ども会」～子ども中心から親子で楽しむ子ども会～と題して開催させていただいたものです。

年々子どもの数が減少する一方、保護者・子ども共に多忙化が進むなど、子ども会を取り巻く環境もめまぐるしく変化しています。学校教育はもとより家庭や地域社会が連携し教育力

を活性化することが求められております。

そこで、基調講演では、墨田区の佐原滋元先生より「子ども会活動におけるメリットとは？」と題し、ご自身がボーイスカウト活動を通して培ったボランティアに対しての体験談をお聞きました。地域で楽しくボランティアを！●自分が確認できる地域で●心を広く、だれとでも仲良く、そ

して、楽しみながら●まして「子ども会育成者」は、多くの子どもたちに種まき（気づき）・土を醸し（豊かな環境や判断力）・確かな茎や葉を作り（生活力）・花を咲かせる（自己実現）をお手伝いする事です。そして最後に「子ども会は」「ふるさとづくり」の「かなめ」あきらめないで、参加し創りあげていこう！と締め括られました。

さて、単位子ども会を見ますと低年齢化が進み、子ども会の加入年齢も 0 歳児からとなり、高学年のメンバーが減少し、従来推進してきた「子どもの手による」



「子どものための」「子ども会」は、子どもが主体的に運営できる状態ではなく、今回はこの事を逆手に取り「親子で楽しめる子ども会」を推し進め、時代にマッ



チングする子ども会の在り方と捉えました。

その事により、午後のグループワークでは、従来テーマ毎に分科会を設定して参りましたがファシリテーター

が中心で参加者と一体となって「親子で楽しめる行事」を協議し、参加された皆様も地元でも実現可能な企画が提案されたことはとても有意義でした。



一方ジュニア・リーダー（中高生）やシニア・リーダー（大学生以上の青年）の部会では、育成者の部会とは異なりリーダーだけでの構成とし、気兼ねなく意見交換や実技のスキル UP に大いに役立つ会となりました。

また全体会では、野外活動の活性化に向けて都子連の子ども会専キャンプ場



をオープンする「檜原山荘」のプレゼンテーションをさせていただきました。

最後になりましたが、年度末で多忙な中、東京都青少年・治安対策本部総合対策部長森山寛治様や開催区の山本亨墨田区長様に励ましのお言葉を



頂き併せて墨田区教育委員会加藤裕之教育長様にもご臨席を賜りましたことに心より感謝申し上げます。

そして、墨田区少年団体連合会の皆様方に改めて御礼を申し上げます。